

# 国内法見直しを 呼びかけ！



盛大に開催されたしまね大会  
～松江市 くにびきメッセ～

## ◆第59回日本身体障害者福祉大会◆ 障害者権利条約の理解すすむ

「障害者権利条約の理解を深めよう」、「障害者団体育成のための支援制度を促進させよう」という大会スローガンのもと、第59回日本身体障害者福祉大会が平成26年5月22、23日の両日、島根県で開催されました。

本県からは佐藤彰矩当協会会長をはじめ計36名が参加。鹿児島市の黒木恵子氏が日身連会長表彰を受賞しました。

### 鹿県身障

# かんぎ 威宜

発行所

社会福祉法人  
鹿 児 島 県  
身体障害者福祉協会

鹿児島市小野一丁目1-1  
ハートピアかごしま3階  
電話 099-228-6271

発行人 佐藤彰矩  
かんぎ 第144号

### ○日身連評議員会および 講演・政策協議

本大会に先立ち、22日にはホテル一畑（松江市）で、日身連平成26年度第1回定例評議員会、講演・政策協議がありました。

評議員会では日身連の平成25年度事業報告と決算、今年度の事業計画と予算が示され、いづれも承認されました。

午後からの基調講演は、外務省総合外交政策局人権人道課長の山中修氏が「障害者権利条約批准までの経緯と締約国としての責務と役割について」と題して、権利条約署名から批准・発効まで至る間の法整備など時系列で紹介しました。次に、内閣府障がい者制度改革担当室長を務めた弁護士東俊裕氏が「障害者権利条約からみた今後の課題」と題し講演。条約の条項のうち、我が国の法律では保障しきれないものや、見直しが必要なものを例に出し、今後の課題として説明しました。

その後、政策協議として国内



表彰を受けた黒木氏  
(鹿児島市)

の大会を第一歩にしたいと期待を寄せると、次にあいさつに立った嵐谷安雄日身連会長は課題となっている国内法の見直しを障害者関係団体が国や地方行政と連携し推進しようと呼びかけました。

島根県知事と松江市長（代理）の歓迎のあいさつ、厚生労働大臣（代理）の来賓あいさつに続き、本県の黒木恵子氏（鹿児島市）を含む51名が日身連会長表彰を受賞しました。

第2部は議事で、日身連の平成25年度事業報告と平成26年度事業計画を森事務局長と嵐谷会長が説明し、会場の承認を得ました。政策協議報告に続き、大会宣言、大会決議が読み上げられ、満場の拍手で採択され、議事は終了しました。

アトラクションは島根県益田市に伝わる石見神楽で、演目は奥出雲が舞台の神話「八岐の大蛇」。須佐之男命が大蛇を退治するクライマックスは迫力があり会場を大いに盛り上げました。

宮崎県身障連合会の矢野光孝会長が来年度宮崎市で開催される第60回大会をアピールした後、大会副会長の小西慶一氏（東京都）が閉会のあいさつ。会場も一体となった「がんばろう三唱」で大会を締めました。

### ○日本身体障害者福祉大会

福祉大会は23日、宍道湖と中海を結ぶ大橋川畔にある島根県立産業交流会館（くにびきメッセ）で盛大に開催されました。

第1部の式典は、国歌斉唱、黙祷につづき大会実行委員長である島根県身障連合会の福井幸夫会長があいさつ。障害者権利条約に触れ、このことがゴールではなくスタートであり、こ

かんぎの製作費の一部に鹿児島県共同募金会の配分金及び賛助会費を充当させていただきます。

社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会

平成25年度 収支決算総括表

(単位：円)

会 計	経 理 区 分	最終予算額	決算額
一般会計		188,596,151	192,396,735
1 法人運営事業		72,337,151	73,838,298
1 協会一般会計		12,546,677	13,468,754
2 障害者の明るいくらし促進事業		9,488,000	9,488,000
3 障害者福祉活動推進事業		9,286,000	9,286,000
4 障害者福祉団体活動費助成事業		18,453,000	18,453,000
5 手話通訳者設置事業		3,411,000	3,411,000
6 全国障害者スポーツ大会派遣事業		12,458,000	12,455,496
7 広報活動事業		514,000	514,000
8 情報サポート事業		5,315,474	5,897,058
9 障害者保健福祉大会事業		865,000	864,990
2 障害者自立交流センター事業		57,710,000	58,288,791
1 障害者自立交流センター管理運営事業		52,884,000	53,462,791
2 県障害者スポーツ大会開催事業		4,826,000	4,826,000
3 視聴覚障害者情報センター事業		58,549,000	60,269,646
1 視聴覚障害者情報センター管理運営事業		49,159,000	49,159,000
2 障害者の明るいくらし促進事業		3,583,000	3,583,000
3 盲ろう者通訳・介助員派遣事業		2,637,000	2,831,000
4 重度障害者アクセス訓練事業		180,000	1,286,780
5 手話通訳者等・要約筆記奉仕員派遣及び健康診断実施事業		660,000	758,580
6 同行援護従業者養成研修事業		1,338,000	1,338,300
7 技術活用事業		992,000	1,312,986
合 計		188,596,151	192,396,735

平成26年度 資金収支予算総括表

(当初予算 会計区分別一覧表)

(単位：円)

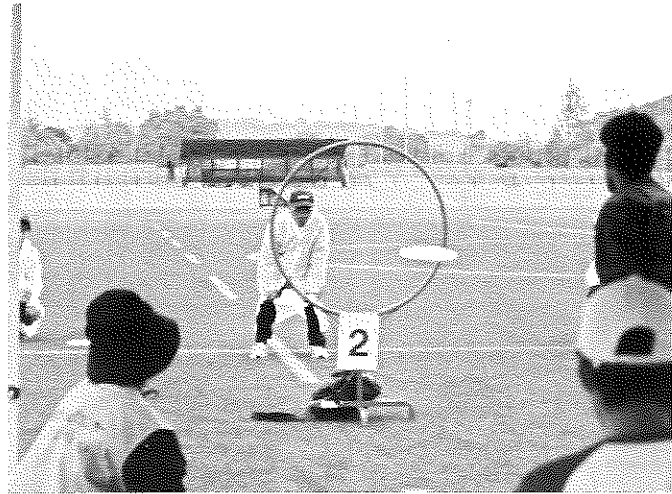
会計区分 (事業区分・拠点区分・サービス区分)	25年度当初予算額	26年度当初予算額
社会福祉事業		
【一般会計】	183,338,000	180,319,000
1 法人本部		
【法人運営事業】	69,658,000	65,201,000
1 管理運営事業 (本部)	11,450,000	8,450,000
【協会一般会計】		
2 障害者の明るいくらし促進事業 (本部)	9,488,000	9,527,000
3 障害者福祉活動推進事業	9,286,000	9,403,000
4 障害者福祉団体活動費助成事業	18,453,000	18,453,000
5 手話通訳者設置事業	3,411,000	3,526,000
6 全国障害者スポーツ大会派遣事業	11,987,000	10,586,000
7 障害者保健福祉大会開催事業	865,000	906,000
8 広報活動事業	350,000	350,000
9 情報サポート事業	3,868,000	4,000,000
10 身体障害者作品展開催事業	500,000	
2 交流センター		
【自立交流センター事業】	57,510,000	57,898,000
1 管理運営事業 (交流)	52,684,000	52,751,000
2 県障害者スポーツ大会開催事業	4,826,000	5,147,000
3 情報センター		
【視聴覚障害者情報センター事業】	56,170,000	57,220,000
1 管理運営事業 (情報)	49,159,000	49,387,000
2 障害者の明るいくらし促進事業 (情報)	3,583,000	3,583,000
3 盲ろう者通訳・介助員派遣事業	1,988,000	1,530,000
4 重度障害者アクセス訓練事業	180,000	79,000
5 手話通訳者等・要約筆記奉仕員派遣及び健康診断実施事業	660,000	800,000
6 同行援護従業者養成研修事業	600,000	1,559,000
7 技術活用事業		282,000
合 計	183,338,000	180,319,000

註【】は旧会計基準時の区分名

第14回全国障害者スポーツ大会  
鹿児島県代表選手

競 技	氏 名	所 属
陸上競技	新 谷 大 夢	県立鹿児島養護学校
陸上競技	堂 地 友 徳	肝属地区
陸上競技	吉 原 勉	県立盲学校
陸上競技	日 高 房 雄	熊毛地区
陸上競技	齋 藤 正 明	鹿児島市
陸上競技	愛 甲 龍 輔	薩摩川内市
陸上競技	外 園 貴 志	薩摩川内市
陸上競技	豊 田 伸 之	奄美市
陸上競技	田 島 光	県立鹿児島養護学校
陸上競技	笹 原 希 奈 美	出水市
陸上競技	下津濱 智 春	県立鹿児島養護学校
陸上競技	今 吉 圭 三	武岡台養護学校
陸上競技	尾 辻 諒	ヤマト運輸
陸上競技	武 田 仁	サポートなごみ
陸上競技	山 下 博 司	障害者就労支援センターみらい
陸上競技	森 田 一 美	鹿児島市
陸上競技	今 西 隼 人	県立串木野養護学校
陸上競技	久 保 理 香	ワークショップはやと
陸上競技	敷 根 美 保	新葉学園
陸上競技	有 川 蘭	県立串木野養護学校
陸上競技	五十嵐 梓	ゆうかり学園
水 泳	大 重 好 弘	鹿児島市
水 泳	武 和 子	鹿児島市
水 泳	上 國 料 保 子	鹿児島市
水 泳	有 村 陸	鹿児島情報高等学校
水 泳	川 畑 志 帆	ワークセンターいにしへの杜
水 泳	島 田 寛 大	光の郷
水 泳	丸 山 智 仁	武岡台養護学校
卓 球	前 田 久 男	南九州市
卓 球	中 宮 恵 子	南さつま市
卓 球	緒 方 惟 陸	南さつま市
卓 球	土 橋 伸 吾	鹿屋市
卓 球	菊 永 愛 可 梨	県立聾学校
卓 球	川 崎 淳 平	鹿屋養護学校
卓 球	上 原 め ぐ み	鹿児島高等特別支援学校
フライングディスク	木 村 彰 彦	鹿児島市
フライングディスク	田 中 三 千 夫	大島郡
フライングディスク	下 堂 園 清 一	南さつま市
フライングディスク	辻 田 章 治	出水市
フライングディスク	石 崎 信 一	末吉学園
フライングディスク	永 田 強	鹿屋養護学校
フライングディスク	川 畑 英 行	あさひが丘学園
フライングディスク	蜂 巣 喜 久 代	みどりの里
フライングディスク	今 門 直 子	セルブあいら
ボウリング	堀 添 史 浩	鹿児島城西高等学校
ボウリング	古 野 大 樹	(株)九州建物管理サービス

第8回  
鹿児島県  
障害者スポーツ大会



フライングディスク競技は、今年2月に完成した  
県立サッカー・ラグビー場が舞台

第8回鹿児島県障害者スポーツ大会が5月18日(日)に、鴨池陸上競技場(陸上)、鹿児島県立サッカー・ラグビー場(フライングディスク)、ハートピアかごしま(水泳・卓球・アーチェリー)、サンライトゾーン(ボウリング)を会場に盛大に開催されました。心配された雨も、開会式では小雨が降ったものの、以後は好転し、3年ぶりに降らず照らすの大会日和となりました。

本大会は、一般の県民体育大会に匹敵するものであり、障害者スポーツの振興を図り、障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的とした大会です。また、本大会を実施することによって、障害のある人自身の残存能力や成長の確認、次のステップへの目標設定ができません。

さて、県障害者スポーツ大会を県民体育大会とは別枠で実施するのはどうしてでしょう。障害のある人はない人に比べて配慮しなければならぬ点が多数あり、同じ土俵で競技するには無理があるからです。障害のない人は、得手不得手、上手下手があつても大体の種目はできます。それに比べて障害のある人は、その障害により、できる種目とできない種目があります。例えば、車椅子の人は立って走れないし、上肢に大きな障害があれば投げることはできません。しかし、競技用車椅子や、軽い投てき物を使用するなどルールや道具を工夫することで競技に参加できます。

岩 元 賢 治

大会を終えて感じたことは、障害があつても、できることへ挑戦するひたむきな姿と強い意志・精神力は障害の無い人に勝るとも劣らないということでした。

県障害者自立交流センター

# ～パソコン相談始めます～

県身体障害者福祉協会 電話099 (228) 6271

鹿児島県身体障害者福祉協会と県障害者社会参加推進センターでは、県の委託を受けて、障害のある方の自立と社会参加の促進を図るため、9月から県障害者ITサポートセンターの運営を始め、パソコン操作等に関する相談に応じます。パソコンを買ったけどうまく操作できない方、これからパソコンにチャレンジしてみたいという方など、まずは相談してみたいかがですか？

要領は、別紙のとおりです。

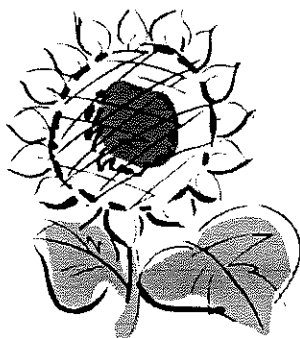
なお、予約希望の重複やパソコンボランティアの方の都合等により、希望どおりにならないことがあることをご承知ください。

また、鹿児島県身体障害者福祉協会が運営している県障害者自立交流センターでも、パソコン教室やパソコンに関する相談事業を行っています。

(交流センターには  
099-218-4333  
でお問い合わせください。)

## 行 事 予 定

- ・ 7月16日(水) 鹿児島県グラウンド・ゴルフ大会 霧島市
- ・ 8月6日(水) 鹿児島県ゲートボール大会 霧島市
- ・ 9月18日(木) 九州身体障害者グラウンド・ゴルフ大会 宮崎県
- ・ 11月1日(土) 3日(月) 第14回全国障害者スポーツ大会 長崎県
- ・ 11月13日(木) 平成26年度鹿児島県障害者保健福祉大会 鹿児島市
- ・ 11月20日(木) 21日(金) 九州身体障害者ゲートボール大会 沖縄県
- ・ 11月27日(木) 28日(金) 第22回九州ブロック身体障害者相談員研修会 佐賀県
- ・ 12月7日(日) あったか交流フェスタ2014 ハートピアかごしま
- ・ 平成27年1月15日(木) 16日(金) 第46回九州身体障害者福祉大会北九州大会



## 大隅が舞台。映画「マンゴーと赤い車椅子」この秋公開

大隅半島を舞台にし、当協会も撮影に協力した映画「マンゴーと赤い車椅子」がこの秋全国公開されます。主演は元AKB48の秋元才加。父母役に鹿児島県出身の榎木孝明と愛華みれ、祖母役に三田佳子を配し、他に、NAOTO (EXILE)、杉田かおる、ベンガルなどが共演します。

主人公は都内で看護師として働く大崎町出身の彩夏です。不慮の事故により脊髄を損傷し半身不随になる彩夏。歩けなくなり自分が介護される側になった絶望と葛藤の中、リハビリセンターの車椅子の仲間たちとの絆、いつの間にか傍らにいた人への恋や永遠の別れを経験しながら、前を向いて生きることを決意していくという涙と笑いの物語となっています。

映画の題名は、主人公が車椅子を注文する時に大隅半島で家族が育てている赤いマンゴーを思いだすことから来ています。

また、監督の仲倉重郎自身も「大動脈解離」で下半身不随になり、車椅子生活を送っています。映画は「頸椎損傷」になった女性看護師のリハビリ記録、監督のリハビリ体験や入院中に出会った若者への取材を基に構成されています。

大隅での撮影は昨年12月中旬に行われ、当協会は、障害者支援協力団体として資金調達面や映画で使われた車椅子対応車両の手配の面などで協力しました。